

こやまの小旅

《歌舞伎座探訪》

歌舞伎は、高額・難解で敷居が高いと思われがちですが、今回もっと身近に楽しもうと行ってきました。

地下鉄・東銀座改札を出ると目の前が、歌舞伎座地下2階です。
コンビニあり、お土産屋さんあり、パン屋、お弁当屋さんありの「木挽町広場」。
平成 25 年に建て替えられてから初めての観劇です。



歌舞伎座



木挽町広場



お弁当を買い、座席で
飲食します。
桟敷席では、注文して
おくと、席まで届け、
食後は、下げに来ます
一幕見席チケットでは
行けないエリア有り。

今回は、映画のチケットより安価な「一幕見席」を
予約しました。(¥1000~月の演目、出演者により変動)
昼間の三幕の内、一幕のみをチョイス。
一幕ごとに値段も上演時間も違い何より違うのは入口
正面入口ではなく、一幕見席専用の往時のままを感じ
させる端の入口。4階直通のエレベーターに乗ります。



座席は1808席、内「一幕見席」は4階にあり、指定席70席（ネット予約のみ）
 当日自由席20席と数少なく、買えずに帰られる方がいて同情します。
 4階でも、そこそこ表情が見られ花道は僅かに見える程度。やっぱりお値段ですね
《とちり席》

座席の数え方は、昔「いろはにほへとちりぬる…」の並びから「とちり」7列目
 から9列目の中央席が良席と言われ、舞台全体が見られ花道も近いです。現在は、
 1列、2列と数えています。



《昼の部・二幕目を観劇》
 道行雪の故郷（みちゆき雪のふるさと）

あらすじ
 遊女梅川と飛脚問屋の養子忠兵衛が
 駆け落ちし、実父に会いに行く。
 養父に対する不幸を嘆き、梅川が自分の
 せいと二人で死出を覚悟するが別れる。
 ← パンフレットより



歌舞伎座タワー4階の
 ギャラリーに行きましたが
 生憎、期間休館日で入館
 できませんでした。
 歌舞伎の歴史や歴代の衣装
 が、展示されているのだとか。



《隈取とは》…顔の表情がわかりやすくなるようにと、初代市川團十郎が考案。
 筆で線を引き指で片側にぼかすので、描くではなく取ると表現する。
 赤……正義の味方、強さ、英雄を意味する
 青・藍色……悪人、敵、亡霊
 茶……鬼、妖怪、人間以外



残念……3階の「めでたい焼き」紅白餅入を
 買ったかったのですが、一幕見席チケットでは3階に入れずガッカリです。

《歌舞伎座タワー5階日本庭園》

こじんまりとした庭園ですが、四季を感じられるよう樹木の配植がされ、隅には赤い毛氈が敷かれたベンチが、いくつかあり、ここでお弁当を食べることもできます。



《そもそも、歌舞伎とは》

徳川家康が、征夷大將軍になり、江戸幕府を開いた年（1603年）に誕生。

出雲の阿国の「かぶき踊り」から創始。

最初は男女が同じ舞台に立っていたが、風紀上よくないということで禁じられ、男性のみになった。

幼年男子も悩ましいので青年男子のみによる「野郎歌舞伎」が、定着する。

歌舞伎は、当時の事件、流行、言葉を表現して庶民が自ら育んできた文化で、江戸時代の人々に、最も身近にあった芸能です。

今では、セレブリティな人やマニアによる観劇が多いようですが、インバウンドの影響もあり、外国人観光客のラフなスタイルも多く見受けられます。

特別、着衣にドレスコードのような規定は、ありませんが何故でしょう？

和服や整った服装の多いのは……

《特別宣伝》

歌舞伎座正面に、私が故郷と勝手に思っている、岩手県のアンテナショップ「銀河プラザ」があります。田舎暮らしをしていた当時、このアンテナショップに遠野市で採れた山菜や「だんご」と呼ばれる田舎のスイーツ（木型に入れた大福に似た物）等を販売に、3日間売り子として出張しました。

おでっくなんしえ～（お越しく下さい）

懐かしい♡

6年生 小山久仁子

